

週刊粧業

発行所 週刊粧業®
 東京都文京区小日向4-5-10
 (小日向サニーハイツ501号室)〒112-0006
 電話 (03)3836-2601
 FAX (03)3836-2602

週刊粧業ホームページアドレス
<https://www.syogyo.jp>
 E-メールアドレス
 letter@syogyo.jp
 ©週刊粧業 2023

日本ならではの技術や感性生かした提案を

東化工・澤田晴子会長

東京化粧品工業会(東化工)と日本歯磨工業会の2団体は1月5日、共同主催による業界連合新年会を開催した。当日は化粧品・日用品業関係者1132名が出席し、親睦を深めた。

冒頭、新年の挨拶に登壇した東化工の澤田晴子会長(伊勢半社長)は、昨年を振り返り「化粧品産業の経営環境は昨年から持ち直しの兆しが見られるものの、回復は道半ばで依然として厳しい状況が続いている。一方、歯磨産業についてはコロナ禍においても堅調に推移した。21年度は15年連続で前年を上回り、過去最高となる1553億円の出荷額を記録し、22年度上期も前年比101.2%と順調に推移している」と述べた。

そして化粧品・歯磨産業が飛躍するためには、「日本ならではの技術や感性を生かしながら、魅了した環境で化粧品業界を」と述べた。

東西で連合新年会



西日本化粧品工業会と関係業界による「2023年新年互礼会」が1月5日、ホテル阪急インターナショナル(大阪市)で開催され、約530名が参加した。開会に先立ち、西村元延会長(マンダム会長)は、コロナ禍での社会的・経済的な影響を受けて、化粧品業界も大きく変化してきたことを振り返りながら、「厳

530超が参集、「飛躍の1年」を誓う

西化工・西村元延会長

西日本化粧品工業会と関係業界による「2023年新年互礼会」が1月5日、ホテル阪急インターナショナル(大阪市)で開催され、約530名が参加した。開会に先立ち、西村元延会長(マンダム会長)は、コロナ禍での社会的・経済的な影響を受けて、化粧品業界も大きく変化してきたことを振り返りながら、「厳

2025年に開催を控えているものの、コロナ前の19年との比較では22.7%の減少となっており、インバウンド需要もコロナ禍の影響を受けているが、昨年10月の水際対策の大幅な緩和により、今年は回復も期待される。日本の化粧品は安心・安全かつ高品質・高性能であることが海外から高く評価されており、2025年に開催を控えているものの、コロナ前の19年との比較では22.7%の減少となっており、インバウンド需要もコロナ禍の影響を受けているが、昨年10月の水際対策の大幅な緩和により、今年は回復も期待される。日本の化粧品は安心・安全かつ高品質・高性能であることが海外から高く評価されており、2025年に開催を控

巷間美風

光熱費の高騰や値上げが相次ぐ中、総理が経済団体に賃上げを要請した。今春二極化が進み、格差が広がるのではないかと懸念されている。依然、日本の社会は重厚長大の旧来型産業が重視され、サービス業をはじめ第3次産業や新興企業のポジションは低い。大企業ではなくても、十分に働き甲斐のある職場はあるはずだ。大手マスコミはつい最近まで時の権力者に追従して、働き方改革、就業の多様化を称賛してきた。

でも、日本のすべての労働者の生活向上にはつながらない。(F)

これは、世界的にみて低水準に陥った日本の給与が回復に転じるわけではない。前述の基幹産業や上場企業が総理の意向を受け入れて賃上げを意図したものである。

でも、日本のすべての労働者の生活向上にはつながらない。(F)